

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
医学部	医学科	夜・通信	0	0	160	160	19		
薬学部	医療薬学科	夜・通信		0	25	25	19		
看護学部	看護学科	夜・通信		0	24	24	13		
リハビリテーション学部	理学療法学科	夜・通信		0		22	22	13	
	作業療法学科	夜・通信				24	24	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p><医学部> https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/medicine/</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部> https://www.hyo-med.ac.jp/campus_life/support/scholarship/#studysupport</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/organization/board_member/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	金融機関	2023.4.1～ 2026.3.31	財務関係等
非常勤	医師会長	2022.8.1～ 2025.7.31	地域連携（病診）
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><医学部></p> <p>医学部では、学部長より各科目責任者へシラバスを作成するよう依頼し、科目責任者は、学修成果と科目の関連及び作成要領をもとに、授業概要・授業計画を作成している。</p> <p>なお、授業概要には、目的・到達目標・概要・履修方法・成績の評価方法・評価基準・フィードバック方針・受講のルールなどを定め、授業計画には開講日時、担当教員、講義内容などを定めている。</p> <p>完成したシラバスは、学生が履修計画を立てられるよう3月中旬ごろにホームページにて公表している。</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>「WEBシラバス作成要領」に基づき、各科目責任者がシラバスを作成している。この要領には、WEBシラバスの入力手順や方法の他、入力必須項目(教育目標、達成目標、授業計画、成績評価の方法、授業計画詳細など)が記載されている。シラバス作成にあたっては、説明会を開催している。</p> <p>完成したシラバスは、学生の履修計画が立てられるよう3月中旬頃にホームページにて公表している。</p> <p>なお、成績評価の基準については、教務に関する規程において規定している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

<医学部>

科目責任者は、各科目の授業概要に記載している成績評価の方法・成績評価基準及び評価の原則・評価ガイドラインに基づき、形式的評価として学生の学修成果を評価している。

なお、各科目の学修成果は、大学としての学修成果をもとに各科目で作成している到達目標（アウトカム）を示す。

また、総括的評価として、総合進級試験、共用試験（CBT、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE）、卒業試験などを実施しており、一定の水準を保てるよう、教務委員会で厳格に管理している。

【学修成果に関する公表の方法】

<https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/medicine/>

- ・学修成果
- ・学修成果と授業科目の関連
- ・評価の原則・評価ガイドライン 等を公表している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

科目責任者は、各科目のシラバスに記載されている成績評価の方法に基づき、学生の学修成果を評価し、教務に関する規程に規定されている成績評価の基準により単位を付与している。

また、学修意欲を把握するために、兵庫医科大学薬学部・看護学部・リハビリテーション学部修学の支援に関する法律等の施行に伴う学業成績・学修意欲の確認に係る取扱要領を定めている。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><医学部></p> <p>GPA 制度については、「兵庫医科大学 医学部 GPA 制度に関する要領」において定めており、シラバスに明記し、ホームページにて公表している。</p> <p>また、算出方法についても次のとおり、同要領で定めている。</p> <p>【GPA の算出方法】</p> <p>年度 GPA = (履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の当該年度の総和 / 当該年度の履修総単位数</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>GPA 制度については、「兵庫医科大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部 GPA 制度に関する要項」において定めており、算出方法についても次のとおり、同要項で定めている。</p> <p>【GPA の算出方法】</p> <p>GP (f-strictGP) = (素点 - 55) / 10 ただし、GP < 0.5 は GP = 0.0</p> <p>年度 GPA = (履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の当該年度の総和 / 当該年度の履修総単位数</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><医学部></p> <p>https://www.hyo-med.ac.jp/files/20220323/07155c37a48da94c65027b4dce89ce6c93c0f10f.pdf</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>https://www.hyo-med.ac.jp/campus_life/support/scholarship/#studysupport</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<医学部>

医学部は医師を養成する学部であることから、学位授与方針において、卒業時に医師として備えるべき資質を次のとおり策定している。

「兵庫医科大学医学部は、「建学の精神」である『社会の福祉への奉仕』『人間への深い愛』『人間への幅の広い科学的理解』に基づき定められた使命を達成するため、人間への深い愛情を持ち、かつ科学的な観察・理解に基づいて、社会の福祉に奉仕できる医師を育成します。6年間に在学して所定の単位を修得し、それぞれの4領域12要素の全ての学修成果を修めた学生に学士（医学）の学位を授与します。」

さらに、上記の方針に基づき、4領域12要素を策定している。これらの内容は、シラバスに明記し、ホームページにて公表している。

卒業の認定については、医学部教授会において、学位授与方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する「所定の課程を修了し卒業試験に合格した者」であるかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が卒業を認定している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

医療専門職者を養成する大学であることから、大学全体の卒業の認定方針において、卒業時に医療専門職者として備えるべき資質を次のとおり策定している。

「本学は、建学の精神並びに目的、使命、教育目標のもとに、人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、かつ科学的な理解に基づいて、社会の福祉に奉仕できる医療専門職者を育成し、在学中に所定の単位を修め、所定の学修成果に到達した学生に学位を授与します。」

さらに、上記の大学全体の卒業の認定方針に基づき、各学部において卒業時に身につけるべき資質を卒業の認定方針において策定している。

卒業の認定は、各学部の教授会において、卒業の認定方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する修業年限及び卒業に必要な修得単位を充足しているかどうかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が決定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/financial/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/
監事による監査報告(書)	https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/financial/

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 事業計画)	対象年度: 2023年度)
公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/	
中長期計画 (名称: 第4次中期事業計画)	対象年度: 2023年度~2027年度)
公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/about/activity/assessment/hyo-med/
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/about/activity/assessment/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/medicine/outline/) (概要) 医学部は、豊かな人間性と高い倫理観を培い、医科学に関わる基本的な知識と技能を修得することによって人間を幅広く理解し、多様な医学領域及び種々の専門領域において実践する能力を獲得し、幅広い視野に立って社会の福祉へ奉仕できる有能有為の医師を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy/) (概要) 兵庫医科大学医学部は、「建学の精神」である「『社会の福祉への奉仕』『人間への深い愛』『人間への幅の広い科学的理解』」に基づき定められた使命を達成するため、人間への深い愛情を持ち、かつ科学的な観察・理解に基づいて、社会の福祉に奉仕できる医師を育成します。6年間に在学して所定の単位を修得し、それぞれの4領域12要素の全ての学修成果を修めた学生に学士(医学)の学位を授与します。
社会の福祉への奉仕 関心・意欲・態度 安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
思考・判断 医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
技能・表現 人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。
知識・理解 人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
人間への深い愛 関心・意欲・態度 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域ならびに母校への帰属意識を有している。
思考・判断 患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。

技能・表現

人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。

知識・理解

患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。

人間への幅の広い科学的理解

関心・意欲・態度

医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。

思考・判断

患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。

技能・表現

基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。

知識・理解

人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy/>)

(概要)

兵庫医科大学医学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程編成・実施の方針を以下の通り定めます。

—社会の福祉への奉仕

・社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚するため、低学年から体系的な社会教育を実施する。

・幅の広い教養を身につけるため、関西学院大学上ヶ原キャンパスで多彩な人文社会系科目を修得する。

・国際性と語学力を養うため少人数での英会話教育、医学英語教育、英語のみで実施される臨床科目、英文による試験出題、海外姉妹校への交換留学プログラムなどを実施し、国際保健の教育を行う。

・チーム医療を遂行する優れた協調精神を養うため、4 学部合同のチーム医療演習を実施する。

・本邦ならびに兵庫県の医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療を理解するためささやま医療センターにおける臨床実習を実施し、プライマリケアを学修する。

・地域医療への貢献及び兵庫医科大学への帰属意識と愛着を深める体験や実習を行う。

—人間への深い愛

・豊かな人間性を育み、患者に寄り添う医師を養成するため、体系的な早期臨床体験実習を実施する。

- ・患者及びその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守し、患者安全を図るため、継続的に倫理教育を科目化して実施する。
- ・人間の多様性と多様な考え方を理解するため、多彩な患者、コメディカル、他学部生や関西学院大学の学生などと幅広い交流を行い、第1～第4学年次まで継続してコミュニケーション教育を実施する。
- ・患者の痛み、苦しみを理解するために体系的に痛み教育を行う。

一人間への幅の広い科学的理解

- ・入学前に培われた基本的素養を活かし、リメディアル教育、アカデミックリテラシー教育、理数系基礎教育、医学への準備教育及び基礎医学教育を段階的に行い、生命科学の基本概念を修得するとともに学修能力を向上させ知的好奇心を涵養する。
 - ・人体についての基本的な知識並びに様々な疾病に対する適切な治療法を身に付けるため、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した統合カリキュラムと診療参加型実習を導入する。
 - ・患者の持つ様々な問題点を統合的に捉え解決できる応用力と問題解決能力を養うためチーム基盤型学修を導入する。
 - ・最先端の医学的知見を教育し、研究を遂行する意欲と基礎的素養を涵養するため、基礎講座配属を実施し、研究医コースを設ける。
 - ・適切なコミュニケーション能力、基本的な診察法、医療技術、治療法、救命救急法の修得のため低学年における患者接触を含め約72週のベッドサイド教育を実施する。
 - ・予防・先制医療から在宅医療・看取りまですべての医療の時間軸を学修する実習を行う
- 生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を養うため、レベルアップ選択科目並びに自由選択実習を導入し、また同僚や後輩への教育機会も創出するため、ピアサポート制度並びに屋根瓦方式の臨床実習を導入する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>)

(概要)

兵庫医科大学医学部では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を掲げており、その方針に則り、本学部の目的を達成するために次のような人物を求めます。

<求める人物像>

【関心・意欲・態度】

- ・医師となることについて明確な目的と情熱を持っている。
- ・病める人に対する思いやりを持ち、痛みに関感できる。
- ・豊かな教養と人間性を有する。
- ・常に努力を怠らない強い向上心を持ち、自ら進んで学修し、生涯にわたって自己啓発・自己学修・自己の健康増進を継続する意欲がある。
- ・科学への好奇心を有し、疑問に対して積極的に追求する姿勢を有する。
- ・自己犠牲の精神があり、社会に奉仕する心を持つ。

【思考・判断】

- ・高い倫理性を有し、良心に従い行動できる。
- ・自分の考えや行動に責任を持ち、それを周囲に明確に示すことができる。

【技能・表現】

- ・協調性に富み、周囲の人と十分なコミュニケーションを取ることができる。
- ・多様な価値観を理解でき、相手の立場に立って接することができる。
- ・知識、技能をわかりやすく伝えることができる。

【知識・理解】

・本学部の医学教育プログラムに対応できるしっかりとした基礎学力を有する。

入学するまでに、次のような教科、科目の内容を理解、習得していることが望まれます。

数学

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B（「数列」、「ベクトル」）

外国語

コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ

理科

物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物

その他に、基礎的な読解力、表現力、判断力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、論理的思考力、分析能力、社会の仕組みの理解と変化する社会情勢に対応する素養

このような人物の受け入れを行うため、本学部では次のような入学者選抜を実施しています。

<選抜方法の趣旨>

地域医療を含む日本の医学・医療・福祉・保健に広く貢献できるよう、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜を行い、多様な人物を受け入れることを目指しています。

一般選抜では、高等学校において十分な学力を修得した学生、或いは同等の学力を有する学生を選抜します。一般選抜 B（高大接続型）では、自ら進んで英語力を身につけ、国際的に活躍しようとする意欲を有することを重視します。学校推薦型選抜では、高等学校において一定のレベルの学力を修得したと認められる学生の推薦を求めますが、これに加えて、スポーツ・文化活動、検定資格、生徒会活動なども評価の対象としています。

学校推薦型選抜（地域指定制）では、将来の地域医療を担う医師を確保するため居住地域を限定して募集するもので、この制度により入学した方は地域医療に関する実習を履修します。総合型選抜では、医学教育に耐えうる学力を有していることに加え、多職種連携を推進するため主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を重視します。

評価・重視する点や具体的な判定方法は次のとおりです。

【総合型選抜】

兵庫医科大学での学びを通じ社会に貢献する強い意志を有し、主体性を持って多様な人々と協働して学び多職種連携を推進する適性を有する人材を募集します。志望する強い意欲を志望理由書にて確認します。医学を学ぶのに必要な学力をみるための基礎適性検査、表現力、論理的思考力をみるための小論文試験、科学的・論理的思考力、表現力、判断力をみるためのプレゼンテーション試験、目的意識、コミュニケーション能力、多職種連携への理解などをみるための面接試験を行います。基礎適性検査、小論文試験、プレゼンテーション試験、面接試験、調査書、志望理由書などを含めて多面的、総合的に判定します。

【学校推薦型選抜】

充実した高校生活を送り全教科にバランスの取れた学力と優れた人間性を有する方

を求めます。また、高等学校で多様な活動をした方、個性的な活動をした方も歓迎します。医学を学ぶのに必要な学力をみるための基礎適性検査、表現力、論理的思考力をみるための小論文試験、目的意識、コミュニケーション能力、表現力、判断力、協調性などをみるための面接試験を行います。基礎適性検査、小論文試験、面接試験、調査書などを含めて多面的、総合的に判定します。

特に、学校推薦型選抜（地域指定制）では、地域医療に対する理解・意欲などを含めて評価します。

【一般選抜】

高等学校において十分な学力を修得した学生に加えて、社会人や他学部卒業生などを含めて幅広く人材を募集します。一般選抜 A（4科目型）では、医学を学ぶのに必要な学力をみるための個別学力検査は3教科4科目を課します。小論文試験は読解力、分析能力、論理的思考力等を計ります。面接試験では医学への志向と勉学意欲、表現力、判断力、協調性、コミュニケーション能力を持っていることを重視します。一般選抜 B（高大接続型）では、個別学力検査に加えて英語の資格・検定試験を用いて英語の4技能を計ります。

個別学力検査、小論文試験、面接試験、調査書などを含めて多面的、総合的に判定します。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/pharmacy/outline>）

（概要）

薬学部は、物質と生体に関する正しい知識と研究を通して得られる問題解決能力を基盤としつつ、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての明確な意識のもとに、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる医薬品の専門職者を養成します。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy>）

（概要）

大学全体の卒業の認定方針に基づき、本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（薬学）を授与します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要な倫理観、使命感、責任感を有する。
2. チーム医療の一員として、他の医療専門職者とコミュニケーションを取り、互いの立場を理解し尊重しながら、薬剤師として貢献することができる。
3. 十分なコミュニケーション能力を有し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解したうえで薬物治療を実践することができる。
4. 「医薬品・化学物質」と「生体・環境」およびその相互作用について正しい知識を身につけ、さらにそれを応用する技能を有する。
5. 西洋医学および東洋医学に基づく安全かつ有効な薬物療法を主体的に実施するために必要な薬学的管理を実践する能力を有する。
6. 地域の医療・保健・福祉に関する知識と、それを地域住民の健康増進、公衆衛生の向上に結びつける能力を有する。
7. 研究活動に取り組む意欲を有し、研究課題を発見し解決する基本的能力を有する。
8. 世界の医療・科学技術の進歩に迅速に対応できるよう、生涯にわたり自ら学び続けることができる。

<p>9. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を有する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy/)</p>
<p>(概要) 大学全体の教育課程の編成方針に基づき、本学部では、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。</p> <p>【編成方針】 初年次は、全教育課程を全うするために必要な学習諸要素を修得する機会を提供する。薬学専門科目を学ぶ基礎としての高次接続科目を初年次の初めに配置する。人文科学、社会科学、自然科学などの教養科目は低学年次に修得させる。 低学年次から高学年次にわたり医療専門職者としての意識づけや態度教育を行い、チーム医療科目やコミュニケーションに関する科目は複数年次にわたって継続的・発展的に編成する。専門科目はキャリアイメージを早期に確実なものとするために、初年次から開始し、段階的に能力を各年次において発展させるべく編成する。 薬剤師業務の基礎的知識、技能、態度が修得できるよう 4 年次に実務実習事前学習や共用試験を受験させ、その試験に合格後、5 年次に 5 か月間にわたる薬局実務実習および病院実務実習を履修する。4 年次後半より研究室配属を行い、実験・研究を通じて問題解決能力、自己研鑽能力、後進を指導する意欲と態度を養成する。さらに、最終学年次には、6 年間の学修内容を統合的に連携付けさせる総合演習科目を配当する。</p> <p>【実施方針】 学習効率の向上および能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義・演習・自己学習の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習を積極的に取り入れる。技能・態度の修得を目的に、実習科目を取り入れる。さらに、授業科目に関連する医療施設・薬事衛生施設・企業の見学、学識経験者や薬害患者などの招聘講義、医療専門職者・模擬患者の授業参加を取り入れる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/)</p>
<p>(概要) 薬と生体についての「専門的な知識」、薬を正しく取り扱うことのできる「正確な技術」、および、他者との「コミュニケーション能力」を身につけた人を育てます。さらに、多様な専門職者からなる医療チームの中で、身につけた知識、技術、コミュニケーション能力を活かして活躍し、人の健康と幸福のために尽力し、社会の発展に貢献する意欲を持った薬のプロフェッショナルを育成します。 したがって、目標とする〈将来の自分像〉を持ち、以下の〈必要な素養と能力〉を有している人を求めます。</p> <p>〈将来の自分像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師として病院や薬局などでチーム医療や地域医療に貢献する。 2. 医薬品の研究・開発や販売を通して企業などで広く医療に貢献する。 3. 薬学研究者・教育者として研究機関や大学などで活躍する。 4. 薬事・衛生行政に関わり、国や地方自治体で活躍する。 <p>〈必要な素養と能力〉</p> <p>【知識・技能】</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・薬学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づいて論理的に考え、判断し、行動できる素養がある。 ・自分の考えを人に分かりやすく伝えることができる。 <p>【主体性・多様性・協働性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を持って自ら学び続けることができる。 ・相手の話をよく聞いて理解し、柔軟に対応しようとする姿勢がある。

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/nursing/outline)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養います。</p> <p>医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成をめざします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>大学全体の卒業の認定方針に基づき、本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。 2. 地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備える。 3. 看護に必要な専門的知識および倫理的思考を身につける。 4. 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。 5. 看護の基本技術を的確に実施できる。 6. コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる。 7. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種専門性の専門性および役割を理解できる。 8. 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる。 9. 地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる。 10. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>大学全体の教育課程の編成方針に基づき、本学部では、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。</p> <p>【編成方針】</p> <p>教育課程を「基礎分野」と「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成する。看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・</p>

発達、療養環境に応じた看護をもとに、これらの内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成する。また、学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配慮する。看護実践能力を効果的に育成するために講義・演習・学外実習を織り交ぜた授業形態で編成する。また、段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習を配置する。

【実施方法】

授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を積極的に取り入れる。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れる。学内演習は、シミュレーション教育を取り入れ、シミュレーター人形の活用、模擬病室（演習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開する。学外実習は、臨地において知識・技術・態度の統合を図るため、教員・臨床指導者の指導のもとに看護実践を展開する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>）

（概要）

看護の実践者・研究者・教育者として活躍できる優れた看護専門職者（看護師・保健師・助産師）を育成します。

そのため、生命の尊厳や個人の権利・価値観を理解し、尊重できる「感性豊かで倫理観に富んだ人間性」と、高度化・複雑化する医療現場に対応できる「確かな看護実践能力」を育成します。

さらに、地域的・国際的な視野で医療・保健・福祉の課題を総合的に捉え、他職種と協働して、主体的・創造的に人々の **quality of life**（生活の質）の向上に寄与できる能力を育成します。

したがって看護専門職者として医療・保健・福祉などの分野に貢献しようとする意志を有し、以下の＜必要な素養と能力＞を有する人を求めます。

＜必要な素養と能力＞

【知識・技能】

・看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

【思考力・判断力・表現力】

・論理的に物事を考え、表現する力を身につけている。

【主体性・多様性・協働性】

・他者を理解し、協調しようとする姿勢を身につけている。

・看護専門職者になる強い意志を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる。

・自らの目標達成のために努力しやり遂げる意志がある。

学部等名 リハビリテーション学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/rehabilitation/outline>）

（概要）

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解及び保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的実践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力及び生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成をめざします。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy)</p> <p>(概要) 大学全体の卒業の認定方針に基づき、本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、理学療法学科では学士（理学療法学）、作業療法学科では学士（作業療法学）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の幸福と健康に貢献するために行動する人間力を身につける。 2. リハビリテーションを実践するために必要な医学・医療・保健・福祉・行政などの知識を身につける。 3. 効果的にリハビリテーションを実践するために必要な、確かな技術を身につける。 4. チーム医療・地域医療を担う一員として、さまざまな専門職者と連携・協力できるコミュニケーション能力を身につける。 5. ICU（集中治療室）をはじめとする急性期から施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者の問題に向き合う対応力を身につける。 6. さまざまな臨床的課題を解決できる総合的実践力を身につける。 7. 先駆的な研究・教育を展開できるように自分の能力を磨き、他者ととともに自己を高めていく能力を身につける。 8. 地域社会から国際社会に至る多様な文化や価値観を理解する豊かな人間性を身につける。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy)</p> <p>(概要) 大学全体の教育課程の編成方針に基づき、本学部では、「理学療法士作業療法士学校養成指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。</p> <p>【編成方針】 初年次前期には、大学での全教育課程を全うし医療専門職者となるために必要な基本的要素を修得する。教養を身につける科目、専門基礎科目、専門科目を原則的には初年次から4年次まで段階的に学ぶ。理学療法士・作業療法士の職業イメージを確立するための専門科目（病院などでの学外実習を含む）、また、病院などで他職種と連携・協力し合う能力を培うためのチーム医療科目などは、初年次から4年次まで継続的に配置する。最終学年では、学修したすべての成果を統合し、卒業後も発展させていく能力を修得する総合科目を配置する。</p> <p>【実施方法】 授業の実施形態としては、学修効率の向上、能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習などの参加型学習（学生が主体的に学習する方法）を積極的に取り入れる。さらに、リハビリテーションに関連する施設や企業等の見学、学識経験者などを招いての講義、障害のある人・模擬患者の授業参加を取り入れる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/)</p> <p>(概要) リハビリテーション専門職者（理学療法士・作業療法士）として社会に貢献する人を育成します。</p> <p>そのために、人々の幸福と健康に貢献することができる人間力、理学療法学・作業療法学の知識・技術に基づく確実な臨床力、他職種と連携しながらリハビリテーション専門職として力を発揮することができる総合的実践力、そして、生涯にわたって自</p>

分の能力を磨き自己を高めていく能力・態度を育成します。

したがって、理学療法学科では理学療法士として、作業療法学科では作業療法士として、医療・保健・福祉などの分野に貢献しようという意志を有し、以下の〈必要な素養と能力〉を有する人を求めます。

〈必要な素養と能力〉

【知識・技能】

・理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

【思考力・判断力・表現力】

- ・物事を論理的に考えるための基本的思考力がある。
- ・自分なりに物事を判断し、その理由を説明することができる。
- ・自分の気持ちや考えを人に伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・目的意識をもち続け自分から能動的に学修する。
- ・自分と異なる意見や気持ちをもっている人に関する興味と、そのような相手を理解しようとする姿勢をもっている。
- ・人とのコミュニケーションを大切にする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
医学部	—	72人	37人	87人	228人	—人	424人
薬学部	—	17人	10人	8人	14人	1人	50人
看護学部	—	13人	8人	10人	13人	2人	46人
リハビリテーション学部	—	11人	5人	10人	3人	1人	30人
附属病院	—	1人	3人	2人	7人	—人	13人
附属研究所	—	2人	2人	—人	1人	—人	5人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			320人				320人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：教員業績データベース https://gyoseki.hyo-med.ac.jp/hcmhp/KgApp						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学部	112人	112人	100%	672人	703人	104.6%	0人	0人
薬学部	150人	134人	89.3%	900人	798人	88.7%	0人	0人
看護学部	100人	121人	121.0%	400人	450人	112.5%	0人	0人
リハビリテーション学部	80人	82人	102.5%	320人	356人	111.3%	0人	0人
合計	442人	449人	101.6%	2292人	2307人	100.7%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学部	111人 (100%)	0人 (0%)	109人 (98.2%)	2人 (1.8%)
薬学部	121人 (100%)	1人 (0.8%)	76人 (62.8%)	44人 (36.4%)
看護学部	102人 (100%)	0人 (0%)	99人 (97.1%)	3人 (2.9%)
リハビリテーション学部	81人 (100%)	1人 (1.2%)	77人 (95.1%)	3人 (3.7%)
合計	415人 (100%)	2人 (0.5%)	361人 (87%)	52人 (12.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 兵庫医科大学、兵庫医科大学病院、ささやま医療センター				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p><医学部> シラバスにおいて各学年次の配当科目を一覧で示し、科目ごとに授業の方法及び内容並びに年間の授業計画を具体的に記載している。 (参考 URL : https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/syllabus/)</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部> シラバスにおいて授業科目ごとに授業の方法、内容及び年間の授業計画を具体的に記載している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<医学部>				
教育課程、成績評価、進級資格、卒業要件は、兵庫医科大学学則及び医学部の教務に関する規程に記載している。各科目の具体的な成績評価方法は、シラバスの授業計画に記載しており、科目責任者はシラバスに基づき学生の学修成果を評価し、単位を付与している。				
卒業の認定については、医学部教授会において、学位授与方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する「所定の課程を修了し卒業試験に合格した者」であるかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が卒業を認定している。				
<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>				
教育課程、成績評価、進級資格、卒業要件は、兵庫医科大学学則及び教務に関する規程に記載している。各科目の具体的な成績評価方法は、シラバスに記載しており、科目責任者はシラバスに基づき学生の学修成果を評価し、単位を付与している。また、卒業の認定は、各学部の教授会において卒業の認定方針及び修得単位を充足しているか確認した上で判定を行い、最終的に学長が決定している。履修単位の登録上限については、教務に関する規程及び教務便覧の履修方法に明示している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	266.5 単位	(有)・無	単位
薬学部	医療薬学科	195.5 単位	(有)・無	単位
看護学部	看護学科	133 単位	(有)・無	単位
リハビリテーション学部	理学療法学科	133 単位	(有)・無	単位
	作業療法学科	131 単位	(有)・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： <医学部> https://www.hyo-med.ac.jp/files/20220323/07155c37a48da94c65027b4dce89ce6c93c0f10f.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/access/campus_map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
医学部	医学科	2,200,000 円	2,000,000 円	(初年度) 4,300,000 円 (次年度以降) 3,500,000 円	実験実習費：1,000,000 円 施設設備費：1,300,000 円 教育充実費(初年度)： 2,000,000 円 教育充実費(次年度以降)： 1,200,000 円
薬学部	医療 薬学科	1,250,000 円	400,000 円	600,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：400,000 円
		1,500,000 円	200,000 円	400,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：400,000 円
看護学部	看護学科	1,100,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,300,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円
リハビリ テーショ ン学部	理学療法 学科	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,200,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円
	作業療法 学科	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,200,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p><医学部></p> <p>「兵庫医科大学学生支援方針」に基づき、医学教育センターが中心となって、教務委員会、学生部委員会、学年担任、アドバイザー教員、ピアサポーターなどが協働し、学生の教育進捗や状況に応じた学修支援を行っている。</p> <p>医学教育センターの専任教員は、低学年の臨床実習をはじめ、各学年の科目で科目責任者となっており、学生の成績を直接把握している。修学上の問題を抱える学生には、センター教員が随時個別に面談を行い、相談を幅広く受付けている。8月と12月にはGPAを用いて成績不良者のリストアップを行い、センター教員が個別面談と学修上の指導を行っている。留年した学生に対しては、留年決定後希望者に対して、次年度の授業が始まるまでに面談を行い、必要に応じて保護者を交えて、精神面や生活面も含めた相談に応じている。医学教育センターによる学生指導状況は、個人情報に配慮した上で定期的に教務委員会へ報告される。</p> <p>第1～4学年次に学年担任教員を配置し、学修および学生生活に関する指導・助言を行っている。各学年担任は学生部委員会と連携し、定期的に行われる出席状況調査の結果を基に欠席の多い学生に対して面談を行い、学修上の問題を抱える学生の早期発見に努めている。また、問題を抱える学生に対しては、医学教育センター、学生保健室、学生相談室と連携することで対応している。</p> <p>第1学年次にはよりきめ細やかな支援を行うため、学生6～7人ごとにアドバイザー教員1名を配置し、入学からの1年間、定期的な懇談会・個人面談を通して交流を深め、学修だけでなく学生生活全般への指導・助言を行っている。必要な場合には、医学教育センター、学生相談室、学生保健室を紹介している。アドバイザー教員による懇談会や個人面談の記録は、年度の終わりに学生支援課へ提出し、必要に応じて進級後の生活、学修指導に用いている。</p> <p>成績に悩む低学年（第1～2学年次生）の学生支援を目的に、ピアサポート制度を設け、公募により選出した上級生（第2～5学年次）がピアサポーターとなり、個別に学修支援や相談に応じている。サポーターの学生の中から学年別に代表を選出し、代表を中心とした自主的な運営を目指し、医学教育センター教員との連携のもと、適宜サポート内容を考え実践している。</p> <p>各科目の担当教員は、シラバスにオフィスアワーを明示して、学生個々の学修上の質問への対応を行っている。</p> <p>また、学校保健安全法施行規則に定める学校において予防すべき感染症による出席停止や自然災害等による通学不可、妊娠・出産など特別な事情により授業を欠席する学生に対しては、講義録画・配信や実習については追実習（補習）を認めるなど、学生個々の事情に応じた支援策を講じている。</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>入学前教育については、アドミッションセンターを設置し、各学部における取り組みを統括している。</p> <p>また、全学部・全学年において、学習状況や学習意欲を確認するための学修実態調査等を実施している。</p> <p>薬学部においては薬学教育センターを設置し、薬学共用試験や薬剤師国家試験への総合的な対策だけでなく、高校から大学での勉強への橋渡し、分野横断的な教育、担当教員との仲立、補習講義などにも取り組んでいる。</p>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

<医学部>

医学部では、教育プログラムの中で様々なキャリアガイダンスを行っており、第1学年次では、入学直後の4月上旬に「自分史年表」を作成し、医師としての将来像を考える機会を設けている。また、「医学部へようこそ」では、本学の様々な分野の教員や本学同窓会「緑樹会」会長が、自身の体験を交えた講義を行い、医師としてのキャリアガイダンスやプランニングについて触れている。

第4学年次「医療入門」では、キャリアガイダンスの時間を設け、マッチングや専門医制度について紹介するほか、拘置所や保健所の責任者を講師として招き、様々な角度から医師としての立場を知ることによって、各自が医師としてのキャリアガイダンスとプランニングを考えることができるよう計画している。

また、特別講義として、『男女共同参画講義』を取り入れ、特に女性医師へのキャリア支援を周知している。

研究医コースの学生は、配属研究室の教員がマンツーマンでメンターとなり、研究指導だけではなく、学修の悩み、進路相談などにも対応している。また、医学教育センターや学生研究支援グループの教員が学生サポートを行っている。

兵庫県推薦入学学生に対しては、年に1回、兵庫県養成医師との交流会が開催されている。兵庫県養成医師制度の実態を知り、先輩の体験談、学生時代に身につけるべき知識・技術など具体的な情報を収集し、自らのキャリアガイダンス、プランニングを考える機会となっている。

地域枠推薦入学生に対しては、各学年で「地域医療特別演習」が必須科目となっており、夏季休暇期間を利用し、地域医療の現場での見学、体験を通じてキャリアガイダンスを行っている。

また、医学教育センター教員の個別面談等で学修上のカウンセリングを行う際は、学年を問わず、自らの医師としてのキャリアプランニングを意識させ、考えさせるよう適切に指導・助言を行っている。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

医療専門職者の育成を通じて、チーム医療を基盤とするキャリア形成において、各種プログラムを通して未来の自分の可能性を広げるサポートをしています。また、就職に関する情報の提供や各種申請・手続き、個別指導・相談を行っています。

- ・「仕事研究セミナー」(医療現場で働く卒業生や医療従事者による各分野の仕事を紹介)
- ・「社会人スキルガイダンス(マナー対策講座)」(挨拶等のマナーをロールプレイング形式で実施)
- ・「社会人スキルガイダンス(就活直前対策講座)」(外部から講師を招き、就職や社会人に必要なスキルを学ぶ)
- ・「兵庫医科大学病院・ささやま医療センター説明会」(同一法人内の両病院から本学学生専用の説明会)
- ・「学校法人兵庫医科大学連携病院の会合同病院説明会」(学校法人兵庫医科大学連携病院の会〔現在125の病院が加盟〕の会員病院がキャンパス内にブースを設けて、学生が個々に病院の説明を聞く説明会)
- ・「就活スタートアップ講座」(本格的に就職活動を迎える時期の対策講座)
- ・「就職相談・履歴書添削・模擬面接」(履歴書の添削や模擬面接等を個別に指導・相談)

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

<医学部>

学生保健管理センターに学生相談室、学生保健室を設置し、学生の心身の健康増進を図っている。

学生相談室に専門の相談員を配置し、週3日または4日間午前10時～午後6時まで、学生からの相談を受け付けている。学生相談室の利用にあたっては、直接相談室へ行くことに加え、電話、テレビ電話、メールでの相談対応も可能であり、学生の利用のしやすさに配慮している。相談室で受けた面談の統計は毎月学生部委員会へ報告される。また、リーフレット「なごみ通信」を季刊し、学生・保護者へ配付、ホームページにも掲載している。学生相談員は、「学校法人兵庫医科大学ハラスメント防止等に関する規程」に則り、ハラスメント相談員を委嘱されており、ハラスメントに関する学生相談にも対応している。

学生保健室には専任の保健師を配置し、学生の健康維持のための定期健康診断や日常的な健康管理を行っている。毎年健康調査票を全学生に配付・回収し、アレルギー情報や大学での生活上で配慮が必要な情報を確認している。新入生には、心電図を含む心臓検診を実施している。また、感染性疾患防止対策として、入学直後に麻疹、風疹、水痘、ムンプス抗体価検査とワクチン接種、臨床実習前にはB型肝炎抗体価検査とワクチン接種、結核対策としてのクオンティフェロン検査を行っており、これらは大学が費用を全額負担している。

さらに、インフルエンザワクチン接種（学生負担）も毎年実施している。学生ハンドブックには、針刺しなどの事故、COVID-19、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症などが発生した際の対応を掲載し、学生に周知している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

学生生活を心身とも健康で楽しく充実したものとするために、学生保健管理センターを設置し、体調の変化や心の悩みの相談に応じている。

学生保健管理センターは保健室と学生相談室の2部門で構成している。

保健室には、学校医3名と保健師3名を配置のうえ、利用時間を月～金曜日8:30～17:00とし、健康に関する支援を行っている。支援内容として、応急処置、休養、健康診断、抗体検査、ワクチン接種、学校感染症、相談、測定、健康診断証明書・抗体検査証明書の発行、健康教室などの活動を行っている。

学生相談室には、公認心理師・臨床心理士2名を配置のうえ、利用時間を月・火・木・金9:00～17:00とし、学生が抱える問題や悩みをともに考え、学生の気持ちの安定、整理、方向づけができるよう支援を行っている。相談内容として、精神・心理状態、人間関係、進路問題、コミュニケーションその他生活全般の問題に当たっている。また、障がいのある学生の支援については、障がい学生支援委員会を設置し、各学部と連携し、支援内容等を検討の上、当該支援を円滑に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/information/ir/>